

9月9日は救急の日です



毎年9(きゅう)月9(きゅう)日を「救急の日」として、救急医療、救急業務について皆さんの理解と認識を深めていただくことを目的に定められています。

◆今、本当に救急車が必要ですか？ 救急車の適正な利用をお願いします

全国的に救急出動件数は年々増加しています。救急要請件数の増加は、高齢化が進んだことや、救急車を住民の方が身近なものとして利用するようになってきたと言えますが、反面、最近ではごく安易に救急車を呼ぶ風潮(明らかに軽症である場合の利用や、タクシー代わりの利用)が急増しているのも事実です。消防が救急車の適正利用をお願いする理由、それは安易

な救急車利用により救急車の稼働率が上がり、重篤なケガや病気に對して到着が遅れること、1分1秒を争う、助かるはずの命を救えなくなることを心配するからです。

●救急車は緊急性のある病気やケガのときに利用しましょう。

●明らかに軽症である場合の利用や、タクシー代わりの利用は控えましょう。

◆大切な人の命を守るために救急講習会を受講しましょう！

現在、消防署では心肺蘇生法の講習会(普通救命講習会)を定期的(須賀川消防署にて

毎月第2土曜日・第3木曜日(開催)及び随時受け付けています。最近設置されてきているAED(自動体外式除細動器)と呼ばれる、誰でも簡単に使用できる機械を組み合わせて、効果的な救命処置を実践してもらう内容となっています。

心肺蘇生法以外にも、けがをして大出血してしまった際の対処法などもご説明いたします。お気軽にお問い合わせください。

◎問い合わせ先
須賀川消防署鏡石分署
☎62-4511

広告

東日本大震災で被災された皆さんに一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。
ボランティアとして「屋根瓦」の「棟」復旧を伝授いたします。ご一報を。

須藤勝行政事務所

〈行政書士〉須藤 勝(元町役場職員)
〈住所〉鏡石町不時沼294
〈TEL〉62-3381



「体がだるい？」
「咳が治らないの？」
それって結核かも…。

結核予防週間

9月24日(土)～30日(金)

結核は過去の病気ではありません。県内でも昨年247名の方が新たに結核を発症しています。その内約6割が65歳以上の方です。結核は、人から人うつる感染症、自分が結核だと気付かずに周りの人々に移してしまうことがあります。結核は、早期発見早期治療により治すことができますので、結核に関心を持ち、正しい知識を身につけましょう。

◆結核はどんな病気？

結核とは、結核菌によって主に肺に炎症を起こす病気です。

結核を発病し重症化している人の咳やくしゃみのしぶきには、結核菌が含まれています。このしぶきが蒸発して、結核菌だけが空気中に漂って飛び、それを周りの人が直接吸い込むことによってうつります。

結核の主な症状には、咳、微熱、たん、胸痛などの症状が2週間以上続いた場合は、要注意です。「結核かな？」と思ったら医療機関を受診しましょう。また人にうつさないために、咳が出る時期はマスクをつけましょう。

◆65歳以上は年に1回胸部レントゲン検査を受けましょう

現在実施中の、町総合健診でも65歳以上の方は無料で検査を受けることができます。9月25日には、鳥見山体育館で追加検診も予定しておりますのでご希望の方は、健康福祉課までお問合せ下さい。

また、健診等で胸部レントゲン検査の精密検査が必要となった場合は、咳やたんが出るなどの自覚症状がなくても必ず受診しましょう。咳・たんなど目立った症状があらわれにくいのが高齢者の結核の特徴です。食欲がない・元気がない・体重減少・微熱などの症状しか出ない場合があります。日頃から健康状態に注意しましょう。

◇問合せ先 健康福祉課 ☎62-2115

地デジ視聴広報車巡回訪問

福島県のアナログ放送は、平成24年3月末までに終了します。地デジのご準備をお急ぎください。デジサポ福島では、下記の期間、鏡石町内をデジサポカーにて地デジアドバイザーが巡回訪問をおこないます。地デジの困りごとについて、お気軽にご相談ください。

◆巡回日程 9月26日(月)～9月30日(金)
◆問い合わせ デジサポ福島 ☎024-505-1010

第13回少年の主張 鏡石町大会

8月6日(土)、町公民館で第13回少年の主張町大会が開催されました。小学生11人、中学生6人が出場し、日頃考えている夢や希望、また震災を体験して感じたことなどについて発表しました。最優秀賞は、小学生の部が正木亜嘉理さん(一小6年)、中学生の部が滝口結菜さん(鏡中3年)の2人が受賞しました。また、赤羽佑互さん(一小6年)、菊地末祐さん(一小6年)、大橋奈々さん(鏡中2年)、津金花歩さん(鏡中3年)の4人が優秀賞を受賞しました。なお、中学校の上位3名は、県大会に推薦することになります。最優秀賞を受賞したお二人の作品を今月と来月に分けてご紹介します。



▲小学生の部最優秀賞を受賞した正木亜嘉理さん

走るといふこと

鏡石町立第一小学校六年 正木 亜嘉理

今、自分で「これが好きだ」と言えることはありますか。私には、ありません。それは、走ることです。風を切って走っているときの「気持ちいい！」という感じ。全力を出し切って走ったあとの「すっきりした！」そう快感。そのすべてが、何よりも好きです。

今年初めて、町のスポーツクラブでリレーの大会に出ることになりました。そこで、私は、走ることに楽しさを新しく見つけたのです。それは、仲間です。

大会に出ることが決まってから、毎日練習をしまし。練習日でない日も練習して、大会の前日まで完璧にバトンをつなぐため、五人で何度もバトンパスを繰り返しました。私は一歩。二歩は、リレーが初めての人で、最初は、全くバトンがつかまりませんでした。二人のタイミングが合わずに、私のバトンは二歩に渡りませんでした。「こんなことでリレーになるのか。」私は、あせりました。一人で走っているときは気分良く走れたのが、思い通りにいかない。もっと経験のある人だったら、正直、そう思っていました。でも、他にメンバーはいません。この五人でバトンをつなごう。私は、二歩の友達に声をかけました。「大丈夫。練習たくさんして、バトンつなげよう。」

それから何日かして、初めてバトンが渡ったとき、「これで、リレーになる。大会で走れる。良かったあ。」と思いました。「もっと練習してうまくパスできるようになる！」友達も、力強く言いました。絶対にいい記録を残そう。一生懸命パスの練習をする友達の姿に、

私は固く誓いました。

それからの練習は、本番と同じようにタイムを計る毎日でした。一ヶ月の間に、タイムは縮まり、六十六秒台になりました。しかし、最後の水曜日の記録は七十秒。二回、三回走ってもタイムは伸びません。「二走と三走のバトン練習した方がいいんじゃない？」私の言葉で、一人が座り込んで泣き始めました。すると、もう一人も一緒に泣いたのです。私だって、本当は泣きたい気持ちでした。助けてくれたのは、コーチでした。

「そんなに悔しいなら、もっともっと練習して、速くなればいいでしょ。」私達は、もう一度走りました。

やっぱり無理だ。決勝に行くことはできない。記録を残せず終わっちゃう。心のすみには弱い自分がいました。だけど、どこかに強気な自分もいました。最初は自信がなかったみんなだけど、一ヶ月一緒に練習してきた仲間だから。

「できる。」

そして私達は、本番を迎えました。結果は六十三秒。自己ベストです。でも、決勝には残れませんでした。私達は、笑っていました。「みんな速かったあ」でも、ベストだよ。」あの日、泣いていた二人も、笑顔でした。

リレーの記録が伸びたのは、自分だけの力ではなく、仲間の支えがあったからです。もし、仲間がいなかったら、タイムを競う相手もない、アドバイスをくれる相手もない。喜びや悔しさをわかり合えることもなかったでしょう。私は、今、走る楽しさと、もう一つ、走れる喜びを感じています。走れる環境があって、教えてくれるコーチがいて、そして競い合える仲間がいること。それが私の、何にも代えられない喜びです。

私は、これからも、走り続けます。風を切って。全力を出し切って。そこに、大切な仲間がいるから。